



↑人の気も知らないでスイカズラが甘い香りをふりまきながら花を咲かせていた。昔、私たちはこの花を“乳花”と呼んで摘んではしゃぶったものだ。

→台風2号が発生したという。今年は異常だと舟頭さはいっていたが、そういわれると江戸川の水も、なんとなく、ねっとりとしているように写真に撮れた。矢切の渡しは、しばらく開店休業が続く。舟頭さんの表情がさえないわけだ。



カラヤンが坂川の縁に座ってぼんやりと空を見上げていた。二週間も早い梅雨入りで、このところ青空がない。

カラヤンとは、坂川にかかる四本の橋のいちばん下流の左岸の橋脚下に住んでいるホームレスのことだ。三月二十七日の第十二話にも登場してもらったので、ご記憶の方もあろう。

水道水に放射性物質が含まれているというので、てんやわんやしていたとき、ひとり黙々と坂川の水をペットボトルにくんでいた、あの男だ。

アルミの空き缶を集めて暮らしているので、カンカラ・カラヤンとだれいうともなく呼ぶようになっていた。

これまで口もきいたことがなかったが、あんまり深刻そうだったので、つい声をかけてしまった。すると、カラヤン、びっくりしたように振り返ると「雲がみえないから困ったなあと思ってるんだ」

「雲？ 見えるじゃない、雲ばっかりじゃない」

「その雲じゃない」

「どのクモ？」

今週のクマ

→人の気も知らないで、クマは今年も竹の子をかじっていた。「こいつを食わないと夏が来ないんだよ」と、人間語がしゃべれたら、たぶんそう言うのだろうか？



まさか、草まで異常気象を警戒しているわけではないだろうが、観賞魚の隠れ家用の小さな土管を着て芽を出していた。

かけ合い漫才のような会話をそのまま書いていたのでは、紙数がいくらあってもたりないので解説する。

東大地震研によると、三月十一日の東日本大震災の前、二日間で二五〇回の余震があったのだそう。

このところ連日のように地震がある。橋の下でも感じるのだそう。気象庁によると、日に最低二十回。この一週間だけでも二〇〇回ちかいという。カラヤン氏はこれは余震にちがいないという。

近いうちに本震がくる。その前に地震雲があらわれるはずだが、こう曇り空が続くと地震雲を見ることができない。だから、困ったこまった、というわけだ。

大きな地震がきたら橋桁がはずれ、オレは車に轢かれたカエルののように、ぺっちゃんこ。ああ、ヤダヤだ、という。

放射性物質を気にしたり、大地震を恐れたり、もっと野放図に暮らしているのかと思ったら、カラヤン氏、けっこう神経質なのだ。

「やっぱり、気になる？」
いじわるな質問を試してみた。

「そりやそうさ、ぎりぎりのところでも生きようとしてるくらいなもの」

愚問だった。いわれてみればそう。